

令和5年度 研究の概要

B56 グループ

⑧西山小 五十川 秀人 ⑨大森北小 土井 隆成 笹島小 高木 健志
田代小 中根 尚之 田代小 藤川 康平

5・6年図形領域の教材や指導の工夫

1 研究の内容

(1) 明らかになった学習内容

図形領域の学習について、小学校学習指導要領解説（2017）では、小学校算数科・中学校数学科を通した資質・能力として、第5、6学年に共通して、「図形を構成する要素や図形間の関係などに着目し、図形の性質や図形の計量について考察する力」を身に付けることとして明記している。

本実践では、学習を通して、図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し、図形の性質や基本図形の面積や体積の求め方を見いだすとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高める能力を一層伸ばすことを主なねらいとしている。単に公式を使いこなすだけでなく、図形の中に既習の図形を見出して既習事項に帰着する考え方を理解させ、学習した図形の性質や基本図形の面積や体積の求め方を基に問題づくりをさせることで学習内容の定着を図りたい。そのため、学習内容を振り返ったり、学習内容を基に考えを発展させたりする活動を大切に学習展開をする必要があると考える。

(2) 把握した児童の実態

授業での児童の様子から、本グループのメンバーが受け持つ学級には、次のような傾向があることが分かった。

- ① 学力が高く、問題に対する自分の考えをもつことができる児童が多いが、その反面、学力の低い児童もおり、学力差が大きい。特に学力の低い児童においては、提示された問題に対して考えをもつことができないことがある。
- ② 問題を提示されたとき、一つの考え方を見付けることはできても、他の考え方はないかと考える児童が少ない。
- ③ 問題を解決できても、学習したことを他の問題や場面で生かすことができない児童が多い。

(3) よりよい教材や指導法

明らかになった学習内容と把握した児童の実態から、以下のような手立てを講じることにした。

手立て① 解決の見通しをもたせる導入場面の工夫

本時の問題と前時の問題とを比較し、共通点や相違点を考えさせたり、既習事項を振り返り、本時の問題との関わりを考えさせたりすることで、解決の見通しをもつことができるようにする。

手立て② 複数の考え方に気付かせたり、考えのよさに気付かせたりする展開場面の工夫

自力解決の後に考え方を共有し、速さや正確さなどに着目させて比較させたりすることで、複数の考え方に気付かせたり、考えのよさに気付かせたりすることができるようにする。

手立て③ 学習内容を定着させたり、見方・考え方を発展させたりする終末場面の工夫

図形を構成する要素を基に、問題づくりをさせたり、あえて要素が不足する問題を考えさせたりすることで、学習内容を定着させたり、見方・考え方を発展させたりすることができるようにする。